

## 知らないこんなところに

中津市長 奥塚 正典

三光上深水の「<sup>かみふこうず</sup>キリズシ<sup>すいどう</sup>隧道」。宇佐と中津をつなぐ約 80 メートルの手掘りトンネルです。到着するまでが大変、道らしき道はなく湿ったうえに石がゴロゴロ転がり、捻挫しないよう足を置く場所を探りながら一步一步注意して登ります。倒木をくぐり歩くこと 30 分、目の前に信じられないような光景、トンネルが現れるのです。

入口から出口が見え真っ暗ではありませんが、中には石が点在、安全確保は自己責任でとヘルメットを着用。岩肌には青の洞門のようにはっきりノミ跡が残っており、足場にしたのか、三角や四角の穴が側面に掘られ苦勞がしのばれます。進んでいくと、中央付近でなぜか「くの字」に曲がっており、少し段差があります。天井に蝙蝠<sup>こうもり</sup>が張りついて不気味です。隧道を抜けた宇佐側に自然石の碑が立っており、掘削の経緯そして明治 3 年の完成を伝えていています。三光村誌によると、昭和 15 年頃まで人馬の往来盛んで、薪、木炭、酒など生活用品を運び、通学路としても利用していたと言います。

「まさかこんなところにトンネルがあるとは！」。大きな驚きと少し大げさですが、苦勞してたどり着き発見した満足感。現在の中津市民でこの隧道を通ったことがあるのはごくわずかかもしれません。知られざる、いや知る人ぞ知る「生活文化」遺産ですね。



キリズシ隧道

その日は本耶馬溪の古羅漢探勝後、移動しての三光での山歩き。驚くべき隧道の出現に、中津のもつ歴史、自然、生活遺産の奥深さを感じ、禅海和尚に劣らぬ中津人の粘り強さ、生活力に感動した一日です。下山後のお茶タイム、案内役の山登り名人曰く「まだまだ中津の知らないすばらしいところへ案内しますよ」。足腰疲労の私は「えっ、中津はすごいな！」の一言です。